

知って得する！話題のトレンドワード(第18回)

ポイント解説！スッキリわかる「リジェネラティブ」

2024.09.27



いま話題のトレンドワードをご紹介します本企画。第18回のテーマはスッキリわかる「リジェネラティブ」です。言葉の意味、そしてその背景や関連する出来事を解説していきます。みなさまのご理解の一助となれば幸いです。

「リジェネラティブ(Regenerative)」とは、「再生する」「回復させる」という意味で、温暖化や異常気象、自然破壊などでダメージを受けた生態系を取り戻そうとする考え方です。日本語では「環境再生」とも訳されます。近年の地球環境に対する意識の高まりや、国連および日本政府が提唱するSDGsの社会浸透を背景に「サステナブル」という言葉がよく使われます。これは、環境をこれ以上悪化させないようにするのが主な目的で、ゴミの削減やエコ製品の利用などが主な活動となります。そして、サステナブルに基づく取り組みでは環境破壊を抑えることはできても破壊された環境を回復させるには不十分、との考え方にも注目が集まりつつあり、そのため環境を積極的に「再生あるいは回復する」ことを目的とした「リジェネラティブ」な考え方や取り組みが注目され始めています。

「リジェネラティブ」は、環境破壊を減らすだけでなく、自然や社会システムが持つ再生能力を生かし、元の健全な状態へと回復させることを目的とします。例えば、不耕起栽培や有機農法などのリジェネラティブ農業、ブルーカーボン(藻場作り)をはじめとするリジェネラティブ水産業などがその具体例となります。

近年は、経済活動そのものを生態系と共存させ環境の再生をめざす「リジェネラティブ・エコノミー」の考え方も盛んになっており、自社製品をリジェネラティブ農業で栽培した材料で贈うなど、リジェネラティブなアプローチを掲げる企業も増えています。

関連する出来事などの背景

ご存じの通り、国連が提唱した持続可能な開発目標「SDGs」には多くの国が参画し、日本政府も積極的に取り組んでいます(「日本政府の取組」)。その実現に欠かせないのが「持続可能な開発」という概念です。これは1987年に「環境と開発に関する世界委員会」が公表した報告書「Our Common Future」の中心的な考え方として取り上げたもので、「将来の世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満たす開発」を示すとされます。ここに含まれる「サステナブル」という言葉は、先述のごとく「持続可能な」「維持できる」という意味を表します。

SDGsの社会浸透に伴い、日本でも「サステナブル」という言葉が身近になりつつありますが、一步踏み込んだ概念として注目を集めているのが今回のテーマである「リジェネラティブ」です。サステナブルでは、未来に向けて地球環境をこのまま持続させる、つまり「問題の悪化を防ぐこと」に重きを置きますが、「リジェネラティブ」はすべての生物にとって良い状態になるよう、積極的に再生・回復させていく、つまり「問題の悪化を防ぎ、再生させる」ことを重視しています。

以下、サステナブルとリジェネラティブの違いをまとめてみました。

… 続きを読む